

# 故太田耐造氏 ゾルゲ事件捜査

## 戦時「思想検事」の秘蔵文書

元司法省幹部、太田耐造氏（1903〜56）。戦時下の統制に大きな役割を果たした一人の「思想検事」だ。その所蔵文書を国立国会図書館が公開し、近現代史の研究者らから注目を集めている。治安維持法改正の過程や「ゾルゲ事件」の資料も含まれ、通説が書き換えられる可能性もある。



**改正治安維持法**  
治安維持法は41年の改正で厳罰化と取り締まり対象の拡大がさらに進んだ。刑期が満了しても再犯の恐れがあるとされれば身柄の拘束が続けられる「予防拘禁制度」が設けられ、同法違反の被告人には三審制が否定されるなど、取り締まられる側に著しく不利な刑事手続きも導入された。

### 情報統制の「代表格」1104点公開

太田氏は戦前の検察官。39年1月、司法省刑事局で思想問題を担当する第6課長に就任した。

41年の治安維持法改正に中心的な役割を果たし、日本の南進政策などの極秘情報や旧ソ連へ送ったスパイ、リヒャルト・ゾルゲの捜査にも関わった。

敗戦後に甲府地裁検事正となったが、公職を追放されて弁護士を開業。56年3月16日、静岡地裁で刑事訴訟の公判中に心臓発作で倒れ、5日後死去した。

17回忌を機に有志が編んだ追想録には、元同僚や後輩による「逸材中の逸材」「その行動は強烈」といった言葉が並ぶ。司法省刑事局で太田氏の後任となり、戦後に検事総長を務めた井本台吉氏は、「主に陸軍でしたが、軍人さんを完全に手なすけて、自分の言うように使いこなしした形跡がある」と回顧している。

戦時下各国が繰り広げた情報戦や諜報活動に詳しい加藤哲郎・一橋大学名誉教授は「情報統制の全般を統括していた『思想検事』の代表格と言える人物」と話す。

太田氏は作成したり回顧した情報戦や諜報活動に詳しい加藤哲郎・一橋大学名誉教授は「情報統制の全般を統括していた『思想検事』の代表格と言える人物」と話す。

されたりした文書の一部を自宅に所蔵していた。公的な保存と活用を望んだ遺族が知り合いの研究者に相談し、伊藤隆・東京大学名誉教授（日本近代政治史）の仲介で2013年10月、国立国会図書館の憲政資料室への寄贈が決まった。同資料室はインターネットで閲覧可能な計150万点で閲覧可能な計150万点の目録も整備し、昨年文書を公開した。28〜52年の計1104点。書架の長さで約4・5段に達する。



1927年	3月	東京帝国大学法学部を卒業
28年	12月	検事に任命
31年	9月	満州事変
32年	5月	5・15事件、犬養毅首相射殺される
33年	7月	右翼らクーデター未遂、神兵隊事件が発覚
36年	2月	2・26事件、首都中枢を反乱軍が占拠①
37年	7月	盧溝橋事件、日中戦争始まる
39年	1月	司法省刑事局第6課長に
	9月	欧州で第2次世界大戦が始まる
41年	3月	治安維持法の改正
	10月	スパイ容疑でゾルゲ②、尾崎秀実ら逮捕
	12月	対米英開戦
42年	9月	旧満州国司法部③刑事司長に
44年	11月	ゾルゲと尾崎秀実、処刑される
	12月	帰国して大審院検事に
45年	4月	司法省大臣官房会計課長に
	8月	敗戦
46年	2月	甲府地裁検事正に
	5月	極東国際軍事裁判(東京裁判)開廷
	8月	弁護士登録
	11月	日本国憲法公布
47年	5月	日本国憲法施行
56年	3月	静岡地裁の公判中に倒れ、死去

## 研究者「新事実の可能性」

文書には統制する側の考えや動向を跡づけるものも多く、「極秘」や「厳秘」と記されたものも多い。

例えば41年8月、第3次近衛内閣で国務相だった平沼騏一郎が右翼活動家に銃撃され、重傷を負った事件

の資料。鉛筆で数々にわたって書かれているのは、今の後の方針だ。重臣暗殺など

の共謀行為を「包括的に処罰し得る如き特別規定」の必要を感じ、「至急立案の方針」と記しており、さらに取り締まり強化を考えていたことがうかがえる。

また、「臨時郵便取締令（緊急勅令）案」と題した極秘文書は、戦時下に個人の封書の検閲や差し止めを可能にする条文案だ。柵外

には「憲法上の保障を實質的に廃棄す（憲法停止）」と、太田氏の考え方も関係者からの指摘とも受け取れる書き込みがあった。

ゾルゲ事件や左翼運動史の研究を続ける「社会運動資料センター」代表の渡部富哉さんらも文書を分析しているグループの一つ。目録を精査したところ、当局

がゾルゲ事件の内情を始めた時期は通説よりさかのぼる可能性が高く、検証を進めている。渡部さんは「埋もれていた新事実が次々出てくる可能性が高い」と話す。

また、特高警察や憲兵隊に詳しい荻野富士夫・小樽商科大学名誉教授は「起訴や予防拘禁の個別事例が全国から寄せられているなど、未知の資料が大半。非常に貴重な資料群と位置づけられる」と話している。

（編集委員・永井靖二）

①「太田耐造関係文書」の一部。「厳秘」「極秘」の印があるものも多い＝国立国会図書館蔵  
②旧満州国の司法部刑事司長だった頃の太田耐造氏＝1942年10月19日、「太田耐造追想集」から